

水生半翅類

水生半翅類

1 調査概要

水生半翅類は水生甲虫類と同様、近年その生息環境の悪化に伴い絶滅が危惧されている動物群の一つである。生息状況を把握するモニタリング調査は必須であるが、群馬県内の水生半翅類の記録は少ない。そこで本年度は、東毛の低湿地における水生半翅類のモニタリング調査を行った。

2 調査日と調査地

2019年5月20日（調査時間：9：30～15：00、天候：晴）に古城沼、蛇沼、茂林寺沼、多々良沼での調査を行った。

調査地点のメッシュコードは、以下のとおりである。

館林市花山町（古城沼）：5439-2485

館林市上赤生田町（蛇沼）：5439-2463

館林市堀工町（茂林寺沼）：5439-2462

館林市松沼町（多々良沼）：5439-3400

3 調査方法

調査は各池沼で、メッシュ2mmのDフレームネットを使ったすくい採りで水面および水際の採集を行った。アメンボ類など目視で確認出来るものはその都度、見つけ採りを行い、他の遊泳性の種については、その種が生息しているであろう環境で複数回すくい採りを実施した。

4 調査結果

本調査では、古城沼にて水面付近でムモンミズカメムシ *Mesovelia miyamotoi* およびハネナシアメンボ *Gerris nepalensis* が確認できた。同所では特定県内希少野生動植物種に指定されているオオモノサシトシボの生息も確認した。ムモンミズカメムシは茂林寺沼、多々良沼でも確認できた。

蛇沼では、エサキアメンボ *Limnoporus esakii*、アメンボ *Aquarius paludum*、ヒメアメンボ *Gerris latiabdominis* を確認した。エサキアメンボは、環境省（2019）の準絶滅危惧（NT）、群馬県（2012）の情報不足（DD）に選定されている種である。

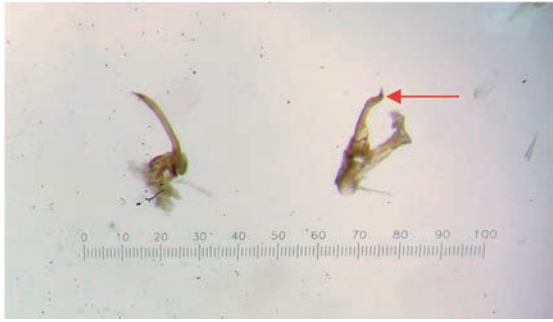
多々良沼に隣接する多々良沼公園内の池では、ハイイロチビミズムシ *Micronecta sahlbergii*、ハラグロコミズムシ *Sigara nigroventralis*、ヒメイトアメンボ *Hydrometra procera* が確認できた。ハイイロチビミズムシ、ハラグロコミズムシなどミズムシ類は近縁種との外部形態が非常に似ているため、同定のため雄交尾器を確認した（図1）。

今回の調査では、普通種であるがこれまで県内で記録がなかったミズムシ類も複数種見つかった。継続的に県内の水生半翅類の調査を進め、希少種を含めた県内の水生半翅相を明らかにしたい。

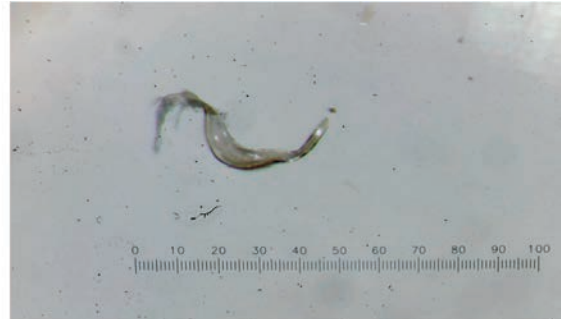
引用文献

環境省（2019）レッドリスト2019 昆虫類。（<http://www.env.go.jp/press/106383.html>）

群馬県（2012）群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編。301pp. 群馬県。



ハイイロチビミズムシ雄交尾器
(左把握器の先端がS字になる)



ハラグロコミズムシ雄右交尾鉤

図1 ハイイロチビミズムシとハラグロコミズムシの雄交尾器

(茶珍 護・内山 裕司・宮原 義夫・土屋 清喜・斎藤 晋)